

記入例

※エクセルの場合、Altキー+Enterキーを押すと改行できます。

ばい煙発生施設設置[★](~~使用、変更~~)届出書

実際に届出する年月日を記入してください。
(着手予定日の60日前までに届出が必要です。)

⇒ [] 年 [] 月 [] 日

☞届出する事業者の社名・代表者（役職含む）・連絡先・電子メールアドレス・担当者名を記入してください。（ゴム印可）
☞押印を省略しても届出可能ですが、電子メールアドレスの記入をお願いします
☞法人の代表者が記入・押印された委任状があれば、工場長等を事業場の代表者としても構いません。

西宮市長様

★について

不要な箇所は二重線を記入する。
(届出内容) (二重線の箇所)
【設置】第6条第1項 ⇒ 使用、変更
【使用】第7条第1項 ⇒ 設置、変更
【変更】第8条第1項 ⇒ 設置、使用

届出者 (氏名又は名称及び住所並びに法人にあってはその代表者の氏名)

氏名又は名称 **△○□株式会社**
(〒○○○ - △○□○)

住所 **西宮市○○町○○番○○号**

代表者の氏名 **代表取締役 西宮 ○太郎**

電話番号 **0798-○○-○△□×**

電子メール **×○□@▲■●. ◎▽. ▼◇**

担当者名 **西宮 □一郎**

大気汚染防止法第6条第1項[★](~~第7条第1項、第8条第1項~~)の規定により、ばい煙発生施設について、次のとおり届け出ます。

工場又は事業場の名	△○□株式会社西宮工場	※ 整理番号	
工場又は事業場の所在地	西宮市○○町○○番○○号	※ 受理年月日	年 月 日
ばい煙発生施設の種類	第1項 ボイラー	※ 施設番号	
ばい煙発生施設の構造	別紙1のとおり	ばい煙発生施設の項番号、施設の種類を記入してください。 項番号は法施行令別表第1に掲げるものとします。	
ばい煙発生施設の使用の方法	別紙2のとおり		
ばい煙の処理の方法	別紙3のとおり	※ 備考	

【備考】

- 1 ばい煙発生施設の種類欄には、大気汚染防止法施行令別表第1に掲げる項番号及び名称を記載すること。
- 2 ※印の欄には、記載しないこと。
- 3 変更届出の場合には、変更のある部分について、変更前及び変更後の内容を対照させること。
- 4 届出書及び別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本産業規格A4とすること。

記入例（設置）

※エクセルの場合、Altキー+Enterキーを押すと改行できます。

ばい煙発生施設の構造

工場又は事業場における施設番号		A-01	施設番号は、工場等で呼称するものでA-01等で記入してください。
名称及び型式		暖房用ボイラー ○□社製 ABS-XX	一般的な施設名称、メーカー名・型式等を記入してください。
設置年月日		年月日	
設置届の場合は、着手予定・使用開始年月日のみ記入してください。			
着手予定年月日		令和●年◎月○日	年月日
着手予定年月日が届出日より60日以上となっているかを確認してください。			
使用開始予定年月日		令和■年◆月□日	年月日
規 模	伝熱面積 (m ²)	25.8	
	燃料の焼却能力 (重油換算 L/h)	75.5 (120.8Nm ³ /h)	気体燃料の場合は、可能な限り重油換算量と定格のガス量を合わせて記入してください。
	原料の処理能力 (t / h)		
	火格子面積又は羽口断面面積 (m ²)		
	変圧器の定格容量 (K V A)		
	触媒に付着する炭素の焼却能力 (k g / h)		
	焼却能力 (k g / h)		【必須項目】 メーカーのカタログ値等を参考に記入してください。
	乾燥施設の容量 (m ³)		
	電流容量 (K A)		
	ポンプの動力 (K W)		
合成・漂白・濃縮能力 (k g / h)			

【備考】

- 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。
- 2 規模の欄には、大気汚染防止法施行令別表第1の中欄に掲げる施設の当該下欄に規定する項目について記載すること。
- 3 ばい煙発生施設の構造概要図を添付すること。概要図は、主要寸法を記入し、日本産業規格A4の大きさに縮小したもの又は既存図面等を用いること。

ばい煙発生施設の構造

工場又は事業場における施設番号		変更前 A-01	変更後 A-01
名称及び型式		暖房用ボイラー 〇〇社製 ABS-XX	暖房用ボイラー 〇〇社製 ABS-XX
設置年月日		年 月 日	令和 ■ 年 ◆ 月 □ 日
着手予定年月日		れいわ ● 年 ◎ 月 ○ 日	令和 × 年 × 月 × 日
着手予定年月日が届出日より60日以上となっているかを確認してください。			
使用開始予定年月日		令和 ■ 年 ◆ 月 □ 日	令和 ○ 年 △ 月 □ 日
規	伝熱面積 (m ²)	25.8	25.8
	燃料の焼却能力 (重油換算 L/h)	137.7	73.4 (117.4Nm ³ /h)
	原料の処理能力 (t / h)		
	火格子面積又は羽口断面面積 (m ²)		
	変圧器の定格容量 (K V A)		
	触媒に付着する炭素の焼却能力 (k g / h)		
模	焼却能力 (k g / h)		
	乾燥施設の容量 (m ³)		
	電流容量 (K A)		
	ポンプの動力 (K W)		
	合成・漂白・濃縮能力 (k g / h)		

【備考】

- 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。
- 2 規模の欄には、大気汚染防止法施行令別表第1の中欄に掲げる施設の当該下欄に規定する項目について記載すること。
- 3 ばい煙発生施設の構造概要図を添付すること。概要図は、主要寸法を記入し、日本産業規格A4の大きさに縮小したもの又は既存図面等を用いること。

ばい煙発生施設の使用方法

工場又は事業場における施設番号		A-01				別紙1と同様に施設番号を記入してください。	
使用状況	1日の使用時間及び月使用日数等	8時～#時 時間/回 回/日 # 日/月			時～時 時間/回 回/日 日/月		
	季節変動	12月15日～3月31日			↑		
原材料（ばい煙の発生に影響のあるものに限る）	種類	—					
	使用割合	—					
	原材料中の成分割合（%）	燃料の種類は具体的に記載してください。 液体燃料の場合は、重量比か容量比かを明らかにし、メーカー保証値の最大を記入してください。					
	1日の使用量	—					
燃料又は電力	種類	都市ガス（13A）					
	燃料中の成分割合（%）	灰分	いおう分	窒素分	灰分	いおう分	窒素分
		0	0	0			
	発熱量	45.0MJ/Nm ³					
	通常の使用量	76.2Nm ³ /h					
	混焼割合	ガス専焼					
排出ガス量（Nm ³ /h）	湿り	最大	1,860	通常	1,645	最大	通常
	乾き	最大	1,520	通常	1,256	【必須項目】 排出ガス量・温度・酸素濃度は必ず記入してください。	
排出ガス温度（℃）	200						
排出ガス中の酸素濃度（%）	4.6						
ばい煙の濃度	ばいじん（g/Nm ³ ）	最大	0.05	通常	0.03	最大	通常
	いおう酸化物（容量比ppm）	最大	0	通常	0	最大	通常
	かどシム及びその化合物（mg/Nm ³ ）	最大	—	通常	—	最大	通常
	塩素（mg/Nm ³ ）	【必須項目】 ばい煙の濃度は、設備仕様書やメーカー保証値等を記入してください。ただし、下記条件のものとします。 ① 乾きガス中の濃度 ② ばい煙処理施設がある場合は処理後の濃度					
	塩化水（mg/Nm ³ ）	—					
	弗素、弗化水素及弗化珪素（mg/Nm ³ ）	—					
	鉛及びその化合物（mg/Nm ³ ）	最大	—	通常	—	最大	通常
窒素酸化物（容量比ppm）	最大	75	通常	60	最大	通常	
ばい煙量（Nm ³ /h）	いおう酸化物	最大	0	通常	0	最大	通常
参考事項	【備考】						

【備考】

- 1 原材料中の成分割合（%）の欄及び燃料中の成分割合（%）の欄の記載にあたっては、重量比%又は容量比%の別を明らかにすること。
- 2 排出ガス量及びばい煙量については、温度が零度であつて圧力が1気圧の状態（この項において「標準状態」という。）における量に、ばい煙の濃度については、標準状態における排出ガス1立方メートル中の量に、それぞれ換算したものとする。
- 3 ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。
- 4 ばい煙の濃度は、ばい煙処理施設がある場合は、処理後の濃度とすること。
- 5 参考事項の欄には、ばい煙の排出状況に著しい変動のある施設についての一工程中の排出量の変動の状況、窒素酸化物の発生抑制のために採っている方法等を記載するほか、ガスタービン、ディーゼル機関、ガス機関又はガソリン機関については、常用又は非常用（専ら非常時において用いられるものをいう。）の別を明らかにすること。

記入例（変更）

※エクセルの場合、Altキー+Enterキーを押すと改行できます。

ばい煙発生施設の使用の方法

工場又は事業場における施設番号		変更前 A-01				変更後 A-01			
使用状況	1日の使用時間及び月使用日数等	8時間/回 30日/月 変更前後の内容が分かるよう記入ください。							
	季節変動	12月15日～3月31日				12月15日～3月31日			
原材料（ばい煙の発生に影響のあるものに限る）	種類	—				—			
	使用割合	—				—			
	原材料中の成分割合（%）	変更前後の燃料の種類を具体的に記載してください。液体燃料の場合は、重量比か容量比かを明らかにし、メーカー保証値の最大を記入してください。							
	1日の使用量	↓				↓			
燃料又は電力	種類	A重油				都市ガス（13A）			
	燃料中の成分割合（%）	灰分	いおう分	窒素分	灰分	いおう分	窒素分		
		0	0.3	0.005	0	0	0		
	発熱量	39.1MJ/L				45.0MJ/Nm ³			
	通常の使用量	120L/h				93.92Nm ³ /h			
	混焼割合	液体専焼				ガス専焼			
排出ガス量（Nm ³ /h）	湿り	最大	1,542	通常	1,248	最大	1,658	通常	1,328
	乾き	最大	1,384	通常	1,025	最大	1,403	通常	1,111
排出ガス	【必須項目】 変更前後の排出ガス量・温度・酸素濃度は必ず記入してください。								
排出ガス中の酸素濃度（%）	4.6				4.3				
ばい煙の濃度	ばいじん（g/Nm ³ ）	最大	0.05	通常	0.03	最大	0.01	通常	0.01
	いおう酸化物（容量比ppm）	最大	1.2	通常	0.8	最大	0	通常	0
	かどミム及びその化合物（mg/Nm ³ ）	最大	—	通常	—	最大	—	通常	—
	塩素（mg/Nm ³ ）	【必須項目】 変更前後のばい煙濃度を記入してください。ばい煙の濃度は、設備仕様書やメーカー保証値等を記入してください。ただし、下記条件のものとなります。							
	塩化物（mg/Nm ³ ）	① 乾きガス中の濃度							
	弗素、弗化珪素	② ばい煙処理施設がある場合は処理後の濃度							
	窒素酸化物（容量比ppm）	最大	90	通常	75	最大	60	通常	45
ばい煙量	いおう酸化物（Nm ³ /h）	最大	0.98	通常	0.65	最大	0	通常	0
参考事項	【備考】								

- 1 原材料中の成分割合（%）の欄及び燃料中の成分割合（%）の欄の記載にあたっては、重量比%又は容量比%の別を明らかにすること。
- 2 排出ガス量及びばい煙量については、温度が零度であつて圧力が1気圧の状態（この項において「標準状態」という。）における量に、ばい煙の濃度については、標準状態における排出ガス1立方メートル中の量に、それぞれ換算したものとする。
- 3 ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。
- 4 ばい煙の濃度は、ばい煙処理施設がある場合は、処理後の濃度とすること。
- 5 参考事項の欄には、ばい煙の排出状況に著しい変動のある施設についての一工程中の排出量の変動の状況、窒素酸化物の発生抑制のために採っている方法を記載するほか、ガスタービン、ディーゼル機関、ガス機関又はガソリン機関については、常用又は非常用（専ら非常時において用いられるものをいう。）の別を明らかにすること。

ばい煙の処理の方法

ばい煙処理施設の工場又は事業場における施設番号	♪	1号煙突	
処理に係るばい煙発生施設の工場又は事業場における施設番号	◎	A-01	
ばい煙処理施設の種類、名称及び型式	☆	煙突	
設置年月日		年月日	年月日
着手予定年月日	令和	年	月
使用開始予定年月日	令和	年	月
ばい煙濃度	排出ガス量 (N m ³ / h)	最大	通常
	排出ガス温度 (°C)	処理前	処理後
	ばいじん (g / N m ³)	処理前	処理後
		いおう酸化物 (容量比 p p m)	処理前
	カドミウム及びその化合物 (mg / N m ³)	処理前	処理後
		塩素 (mg / N m ³)	処理前
	塩化水素 (mg / N m ³)	処理前	処理後
		弗素、弗化水素及び弗化珪素 (mg / N m ³)	処理前
	鉛及びその化合物 (mg / N m ³)	処理前	処理後
		窒素酸化物 (容量比 p p m)	処理前
ばい煙量	いおう酸化物 (N m ³ / h)	最大	通常
		最大	通常
捕集効率 %	ばいじん		
	いおう酸化物		
	カドミウム及びその化合物		
	塩素		
	塩化水素		
	弗素、弗化水素及び弗化珪素		
	鉛及びその化合物		
窒素酸化物			
使用状況	1日の使用時間及び月使用日数等	8時～	
	使用変動	時間/回 回/日 #	/月 時間/回 回/日 日/月
排出の実高さ H _o (m)		30.0	
補正された排出の高さ H _e (m)		34.1	
排出速度 (m / s)		3.3	

ばい煙処理施設を設置していない場合は「—」を♪の欄に記入してください。ただし、ばい煙処理施設ではない「煙突」にて排出する場合は、工場等で呼称するもので施設番号を記入してください。

◎の欄には、別紙1及び別紙2と同様に施設番号を記入してください。

電機集じん機やベンチュリースクラバー等のばい煙処理施設を設置する場合は、☆の欄にメーカー及び型番を含め記入してください。

ばい煙処理施設ではない「煙突」や「排気筒」により排出する場合でも、☆の欄に記入してください。

処理施設の入口、出口濃度を記入してください。処理施設がない場合は「—」を記入してください。

処理能力は設備仕様書やメーカーカタログ等を参照に記入してください。ばい煙濃度は乾きガス中のものとしてください。

【必須項目】
 排出口の実高さは、地上からの高さとしてください。陣笠がある場合は、H_o=H_eとしてください。
補正された排出口の高さや排出速度等を算出した過程の分かる計算表を必ず添付してください。

【備考】

- 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。
- 2 排出ガス量及びばい煙量については、温度が零度であつて圧力が1気圧の状態（この項において「標準状態」という。）における量に、ばい煙の濃度については、標準状態における排出ガス1立方メートル中の量に、それぞれ換算したものとす。
- 3 ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。
- 4 補正された排出口の高さH_eは、大気汚染防止法施行規則第3条第2項の算式により算定すること。
- 5 ばい煙処理施設の構造図とその主要寸法を記入した概要図を添付すること。

ばい煙の処理の方法

ばい煙処理施設の工場又は事業場における施設番号		1号煙突		1号煙突	
処理に係るばい煙発生施設の工場又は事業場における施設番号		A-01		A-01	
ばい煙処理施設の種類、名称及び型式		変更前後の内容が分かるよう記入ください。			
設置年月日		年 月 日		令和 ■ 年 ◆ 月 □ 日	
着手予定年月日		令和 ● 年 ◎ 月 ○ 日		令和 × 年 × 月 × 日	
使用開始予定年月日		令和 ■ 年 ◆ 月 □ 日		令和 ○ 年 △ 月 □ 日	
ばい煙濃度能力	排出ガス量 (N m ³ / h)	最大	1,384	1,403	
		通常	1,025	1,111	
	排出ガス温度 (°C)	処理前	200	200	
		処理後	—	—	
	ばいじん (g / N m ³)	処理前	—	—	
		処理後	—	—	
	いおう酸化物 (容量比 p p m)	処理前	—	—	
		処理後	—	—	
	カドミウム及びその化合物 (m g / N m ³)	処理前	—	—	
		処理後	—	—	
	塩素 (m g / N m ³)	処理前	—	—	
		処理後	—	—	
	塩化水素 (m g / N m ³)	処理前	処理施設の入口および出口の濃度に変更があった場合はそれぞれ記入してください。	—	
		処理後		—	
弗素、弗化水素及び弗化珪素 (m g / N m ³)	処理前	—	—		
	処理後	—	—		
鉛及びその化合物 (m g / N m ³)	処理前	—	—		
	処理後	—	—		
窒素酸化物 (容量比 p p m)	処理前	—	—		
	処理後	—	—		
ばい煙量	いおう酸化物 (N m ³ / h)	最大	処理前	—	—
		最大	処理後	—	—
	通常	処理前	—	—	
		処理後	—	—	
捕集効率%	ばいじん		—	—	
	いおう酸化物		—	—	
	カドミウム及びその化合物		—	—	
	塩素		—	—	
	塩化水素		—	—	
	弗素、弗化水素及び弗化珪素		—	—	
鉛及びその化合物		—	—		
窒素酸化物		—	—		
使用状況	1日の使用時間及び月使用日数等		8時～20時 時間/回 回/日 30日/月	8時～20時 時間/回 回/日 30日/月	
	使用変動		12月15日～3月31日	12月15日～3月31日	
排出口の実高さ H _o (m)		30.0		30.0	
補正された排出口の高さ H _e (m)		34.1		35.6	
排出速度 (m / s)		3.3		4.5	

【備考】

- 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。
- 2 排出ガス量及びばい煙量については、温度が零度であつて圧力が1気圧の状態（この項において「標準状態」という。）における量に、ばい煙の濃度については、標準状態における排出ガス1立方メートル中の量に、それぞれ換算したものとする。
- 3 ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。
- 4 補正された排出口の高さ H_e は、大気汚染防止法施行規則第3条第2項の算式により算定すること。
- 5 ばい煙処理施設の構造図とその主要寸法を記入した概要図を添付すること。

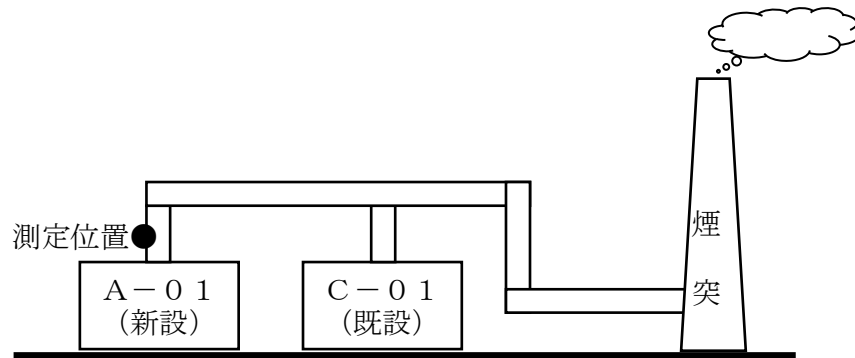
記入例

※エクセルの場合、Altキー+Enterキーを押すと改行できます。

ばい煙の発生及びばい煙の処理に係る操業の系統の概要並びに排出ガスの測定箇所

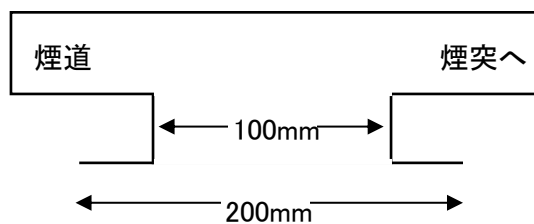
ばい煙発生施設名	A-01	ばい煙発生施設の測定位置や測定孔の大きさ等が分かる資料を添付してください。 記入例のように複数ある場合まとめても結構です。 ばい煙測定の測定位置や大きさが分かればメーカーが作成した図面等を別途添付しても構いません。
測定位置高さ (m)	2, 4 5 6 mm	
測定位置煙道構造	鉄製	
測定孔の大きさ (直径 m m)	1 0 0 mm	

ばい煙の発生及びばい煙の処理に係る操業の系統の概要並びに測定位置

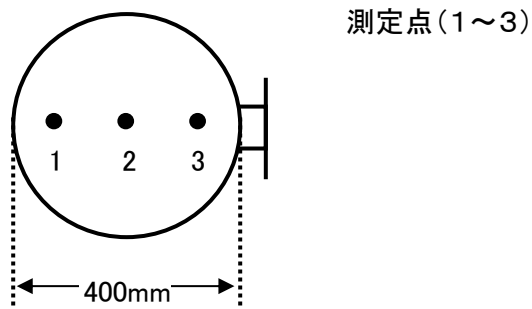


測定位置煙道の方 向	垂直方向
------------	------

測定孔フランジの詳細図



測定点位置の断面図・番号



通風方式	押込通風
------	------